

訪問看護ステーションころっくるが今年で開設10年を迎えました。地域生活を支える要となる訪問看護について、中田しづか所長に寄稿してもらいました。

表 2024年5月現在の内訳

| | |
|--------------|-----|
| 契約者数 | 79 |
| 主治医：ウトナイ病院 | 72 |
| 主治医：ウトナイ病院以外 | 7 |
| 苫小牧市内 | 70 |
| 苫小牧市外 | 9 |
| 訪問件数 | 242 |
| 24時間対応契約者数 | 9 |
| 時間外対応件数 | 24 |

はじめに

おかげさまで当事業所は2024年8月1日をもって開設10周年を迎えることが出来ました。開設当初、東胆振管内の訪問看護ステーション数は5事業所のみでしたが『病院から地域へ』という国の方針もあり、現在は17事業所にまで増え、全国的には訪問看護戦国時代ともいわれるほど、急増しています。

病院との連携について

ウトナイ病院のスタッフとは、電話だけではなく電子カルテや医療介護専用SNSといったICTツールを利用して情報共有等を行っています。外勤中は運転中か訪問看護中であるためなかなか電話対応が難しかったのですが、ICTツールを活用することで互いに都合の良い時間にメッセージを送信するため、非常に

スムーズなやり取りが出来るようになりました。また退院前の会議に声をかけてもらう頻度が大幅に増加し、入院中の状態をしっかりと把握でき、それを踏まえて在宅目線でスムーズな在宅移行に必要なことをお伝えして調整して頂けるようになり、利用者も家族も私たちにとっても安心感が増えました。

市外の病院に通院中の利用者について、病院もしくは利用者本人からご依頼を頂くことがあります。まずは病院や利用者の担当相談支援専門員や通所作業所等があれば情報提供をお願いし、受け入れについて検討を行っています。

精神科訪問看護について

訪問看護といえば自宅で身体的な処置をする、というイメージを持たれる方も多いと思いますが、当事業所は精神科特化という特色を生かした訪問看護を行っており、その内容はケースによって様々です。病状が不安定な方や、病気や障害による生活のしにくさを強く抱えている方に対して、まずは日々の生活を様々な観点から詳細に評価して不安定化や生活しにくい要因を利用者と共に見つけ出します。そして出来る限り不安定とならずに安心して過ごせる方法—具体的には治療の継続・ストレス対処方法の習得・生活リズムの改善・生活環境の改善など—を見出していくのです。例えば、疲労を自身で感じにくく気付けば蓄積して病状にも悪影響を及ぼしている場合は、睡眠時間が減る、趣味に取り組む時間が減った等、体が出している信号を客観的に見つけて疲労に気付けるようにアシストしていきます。

また、生活リズムの習得ややりがいを得て自己肯定感を高める等の目的のために就労支援事業所を提案・情報提供し、就労支援事業所などの障害福祉サービスを利用する際に必要なサービス等利用計画を立てる相談支援専門員と連携して見学や体験、手続き等を進めていきます。

おわりに

精神症状の悪化やそれに伴う入院をいかに軽減するか、精神疾患に伴う生活障害をいかに軽減して少しでも日々の生活が安心して送れるか、と常々利用者やそのご家族、そして各関係機関と一緒に考えて取り組んでいます。これからも選ばれる訪問看護事業所になれるよう、日々、努力を続けていこうと思いますので、今後ともよろしくご協力致します。

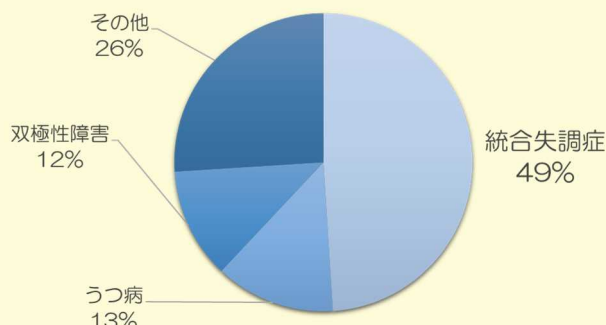


図 担当ケース疾患の内訳

部署紹介

第4回 チームD

今回は「チームD」についてご紹介します。この名前は「医龍～Team Medical Dragon」という漫画に由来し、この漫画がヒットしていた頃に長期在院者の退院に向けた「地域移行支援チーム」として結成されました。時を遡ること10年前、医師・看護師・作業療法士・精神保健福祉士と部署を超えた、外来アウトリーチスタッフの初期メンバー8人で2013年4月に結成。苫小牧地域生活支援センターやピアサポーターとの協働プログラムである「茶話会」「地域生活研究会」等の活動や、2014年からはピアサポーターが1日病院にいて自主活動する「ピアサポーター」の開始など様々な試みをしてきました。

コロナ禍での中断を経て、名付け親である片岡理事長の「こぶしの退院支援の形をみんなで作り上げたい」という掛け声のもと、今年の4月新しいメンバーを加えて再結成されました。現メンバーは片岡理事長・高塚副院長を筆頭に、地域からは相談支援事業所「とまっぷ」・訪問看護ステーション「こころっくる」・グループホーム「遊友荘」の各スタッフ、院内からはデイケア・地域連携室・リハビリテーション部・急性期病棟・療養病棟の各スタッフが参加しています。

毎月第3火曜日に行われる会議では各部署からの報告だけでなく、院内スタッフと地域スタッフがお互いの状況や情報を共有しやすいように病棟からケースを出して症例検討を行っています。職種や立場を超えて様々な視点や意見を聞けるようにしたことで、たくさんの関わりのヒントをもらうことができています。

この4月から始まったばかりですが、これからのチームDの成果にご期待ください。

Dr. 望月の日々雑感

アルツハさんの独り言②

なんか書けと言われ、困ってしまった。仕事を辞めて以来書くことががたんと減ってしまった。脳みそのためにも頑張って何かを書いてみようと思いついたがどうなることか。

びっくりしたのはフィンランドからのお客さん。詳細は不明だが、緒方先生がフィンランドに行ったときに精神病院の先生方の日本旅行の北海道での接待を引き受けたいらしい。お客さんたちは物見遊山で思いっきり日頃のストレスを発散したいのか、男性のみならず女性もよく食べ、よく飲み、よくわめく。白老のホテルで宴会をしたが、飲む量が想像を超えていた。15人ほどいたと思うが、声も大きいし、旅館から苦情がくるかと、びくびくしていたが無事に一夜が明け、機嫌よく次の予定でどこかに行かれほっとした。白人のアルコール耐性の凄まじさを勉強できた。緒方先生が亡くなり、その後の連絡は全く取れていない。

私についていえば、植苗病院で働く前に九州の精神科病院、静岡のてんかんセンターやパリのてんかん専門病院などで勉強してというか面白半分感じで勉強していた。てんかんのクリニックをと考えていたが、緒方先生の強烈な誘いで北海道に来ることになった。緒方さんとは大学時代に学生運動をやっていた。泣く子も黙ると言われていた〇〇派に所属し、金は緒方、デモは私という役割分担ができていた。札幌の泣く子も黙ると言われていた某病院で働きながら、病院の完成を待ち望んでいた。開院し職員も患者さんも安定した頃合いを見て、そろそろ寒い北海道から暖かい九州に戻ろうかなと考えたときに、緒方さんが病気に入院・死亡してしまった。やむなく跡を継いだが、幸い片岡先生や高木先生など優秀な先生がいらっしゃるおかげで、後を任せることができた。仕事を辞めたらどんな日常が襲ってくるのか、期待半分、不安半分というところですか。しかし急速にボケが脳みそを占領しそうな状況で、果たして文章が書けるかどうか正直心配しています。



精神科医 田中 尚朗

第17回 駅探訪・ボストン南駅

みなさんこんにちは。今回はボストン南駅について取り上げてみます。第4回、第14回でも触れたように、南駅は北駅と同様、交通の一大拠点です。通勤者用7路線および長距離鉄道のアムトラックがここを起点としており、地下鉄レッドライン、さらに空港と結ぶシルバーラインというトロリーバスの起点でもあります。鉄道の分岐点かつ空港へのアクセス駅という点では、南千歳駅と似た性質があります。以前は駅近くの連邦ビルに日本領事館が入っていましたが、2020年に市の中心部により近いビルに移転しました。

歴史的には北駅同様、鉄道各社がそれぞれ独立した駅を設置したのがルーツです。それまで4つあった駅を統合する形で、1899年に駅舎が完成。1989年にはリノベーションが行われています。北駅の路線がボストンから北、北西、北東をめざしているのに対して、南駅からの路線は南と西へ向かっています。中でもアムトラックが運行している特急アセラ号は、ボストン、ニューヨーク、フィラデルフィア、ボルティモア、ワシントンを結び、同社の看板列車として有名です。走行距離735 km、最大スピード240 km/h (しかし平均では110 km/h)、1日20往復が全区間を6時間30分程度で走ります。コスト的にはバス、ついで航空便の方が安いのですが、列車の方が快適という人も多く人気があります。

ちなみに、ボストンの鉄道駅にはどこも改札がありません。南駅のようなターミナル駅の場合、ホームで入線を待つ人もおらず、列車が来たとき放送が流れるとみんなそろそろとホームに移動していきます。改札は走行中に車掌さんがするのですが、それも彼らの裁量に任されています。通勤者用7路線では改札がない場合もあります。切符がないと車内で(少し割高のレートで)購入するのですが、その手間が面倒ということなのかもしれません。



冬が来る前に訪れたいところがある。

北海道の北端に位置する宗谷本線は旭川と稚内を結んでいるが、その沿線に雄信内駅、抜海駅という小さな駅がある。両者とも大正末期に開業した由緒ある駅で、今でも木造の駅舎が今でも残っている。かつては駅周囲に街があり、1日100人を超える利用があったらしい。駅員も常駐し貨物の扱いもしていたが、時代ともに利用者は減少して、昭和末期には日に10人程度となり、現在は日常的な利用者はほぼゼロと言われている。一方で駅の維持に多額の費用がかかることから、ついに来春には両駅の廃止が決まった。

もちろん、これらの駅のことは以前から気にかけていて(廃止が決まったため、急に興味が湧いたのではないことを強調しておきたい)、稚内を鉄道で訪れた際には、車窓からではあるがしっかりと見てきた。しかし、列車は数少ない普通列車しか停まらず、時間の限りもあって下車して眺めたことがない。これまでも「いつかは行こう」と思いながら、訪れる前に消えていった施設も多く、その度に後悔してきた。今回こそはと思うが、時間がない。雰囲気を楽しむために訪れるなら、大きな矛盾を抱えつつも、雪が降る前に車で行くことになるのだろうか。

(H)

お知らせ

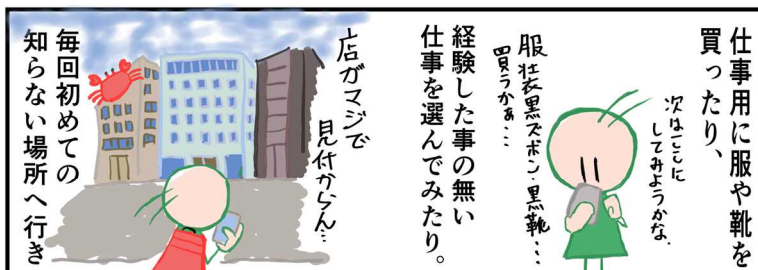
◆ 入院中の方へ手続きのお願い ◆

入院時食事代標準負担額の減額認定及び入院医療費の限度額適用認定、国民健康保険証、後期高齢者医療被保険者証、ひとり親・障害受給者証の有効期限が7月31日までとなっておりますので、**8月中**に各市町村などの窓口で手続きをしていただき、新しい認定証をウトナイ病院事務に提出していただけますようお願い致します。

ご不明な点がございましたら各市町村などの窓口又はウトナイ病院医事課までお問い合わせ下さい。

ようこそ新しい旅へ

まりも



発行
 社会医療法人こぶし広報委員会
 苫小牧市ウトナイ南2丁目1-8
 TEL:0144-84-5561
<http://www.uenae-hp.or.jp/>



ちょっと雲が...

< 後記 >

今年も港まつりの花火を見してきました。お天気がちょっとでしたが、充分楽しかったです！真の花火好きはちゃんと見上げて眺めるポイントまで行っていました。私はナマケモノなので駐車場の近くで済ませちゃいました。(S.K)